

第4学年〇組 「特別の教科 道徳」学習指導案

令和〇年〇月〇日 (〇) 第〇校時
授業者

- 1 主題名 明るい心で 【内容項目A 正直・誠実】
- 2 ねらい 過ちを素直に認める行動について話し合うことを通して、正直であるからこそ、明るい心で伸び伸びとした生活が実現できることを理解し、元氣よく過ごそうとする心情を育てる。

教材名 ひびが入った水そう (東京書籍 「新しいどうとく」)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本時は、小学校第3学年及び第4学年の内容項目「過ちは素直に改め、正直に明るい心で生活すること。」に関するものである。第5学年及び第6学年では、「誠実に、明るい心で生活すること。」につながっていく。

この段階においては、特に他者に対してうそを言ったりごまかしたりしないことに加えて、そのことが自分自身をも偽ることにつながることに気付かせることが求められる。その上で、正直であることの快適さを自覚できるようにすることが大切である。さらに、過ちを犯したときには素直に反省し、そのことを正直に伝えるなどして改めようとする気持ちを育むことも求められる。このことは、たとえ仲の良い仲間集団の中にあっても、周囲に安易に流されない強い心を養う要ともなる。

指導に当たっては、過ちを素直に認めることによって、正直に生きるよさを感じ、児童それぞれが明るい心で元氣よく生活できるようにしていくことが望まれる。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、何事にも前向きに取り組み、男女協力してグループでの新聞づくりや係活動を楽しそうに行っている。友達とのトラブルは少ないが、もし友達との間にトラブルがあったとしても自分の悪かったことを反省し、素直に謝ることができる児童が多い。しかし、相手の方が悪かった思いが強く素直になれない児童も数名いる。

道徳科の学習では、「Listen&Talk」の授業を目指し、児童から出た考えを毎回「道徳レポート」にして、学年だよりに掲載したり、教室の道徳コーナーに掲示したりする活動を行ってきた。その結果、1学期に比べ自分の考えを挙手して伝えることができる児童が多くなってきた。また、道徳ノートには①ねらいについての道徳的価値を児童がどのように表現したのか、②今日の学習で学んだこと・大切にしたいこと、を書かせ児童の思いの見届けをしている。ペア学習やグループ学習も授業の中で意図的に取り入れたり、切り返しの発問を入れたりすることで一つの物事に対して多様な考え方がありということを学級全体で共有できるようにしている。

過ちを犯してしまったときには、誰でも正直に伝えた方がいいのは頭ではわかっている。だが、なかなか言い出せない人間の弱さがあること、それでも時間の経過とともに葛藤を繰り返しながら、やはり正直に言う決心をし、その後にはスッキリとした心地よさがあることを学級全体で考えたい。思考を深めるために、児童の考えに切り返しの発問を入れたり、称賛したりすることで、正直に生きると明るい心で元氣よく伸び伸びと生活する心情につながっていくことをおさえたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、主人公けい太が水槽をきれいにしようとして、誤ってひびを入れてしまい、正直に言うか言うまいか葛藤する内容である。帰宅してからも暗い気持ちであったが先生に正直に打ち明けようとして決意する。正直であることの難しさや良心に従って誠実に行動することのよさについて考えることのできる教材である。本学級の児童の実態を受け、主に次の場面を話し合う。

① 主人公けい太が水そうのひびを見たときの場面

わざとではないにしても学校の水そうにひびをいれてしまったときの主人公けい太の不安な気持ちや正直に言おうか、言うまいかという葛藤の様子、人間の弱さと良心についておさえていく。

② 主人公けい太が正直に伝えた場面

家に帰ってお母さんにも本当のことが言えなかったけい太が次の日、水そうのひびをじっと見つめた後、なぜ正直に言ったのかを話し合い、正直に生きるよさについて考えを深め合う。

③ 正直に言った後の場面

正直に言った後と前の気持ちを整理し、正直であるからこそ、明るいい心で伸び伸びとした生活が実現できることを理解し合い、元気よく過ごそうとする心情を育てるという本時のねらいとする道徳的価値に迫っていく。

4 令和元年度の成果と課題を受けて

(1) 昨年度児童が取り組んできたこと

本児童は3年生の時「自分と対話すること」を特に大切にしてきた。沈黙が長くなるとつい教師が話してしまいがちだが、あえて沈黙の時間を作ることでしっかりと自分自身と向き合う時間をとり、ノートでねらいについての道徳的価値を児童がどのように表現したのかを見届け、その中のいくつかは道徳コーナーに掲示したり、授業の前に紹介したりして、一つの物事に対していろいろな考え方があるということを学級全体でも共有できるようにしてきた。

しかし、自分の考えを伝えることに苦手意識があったり、板書をただ写すだけの児童が見受けられたりと課題も残った。

そこで、4年生では1学期より「Listen&Talk」の授業を意識し、活発な意見が出るように発問を工夫したり、児童の考えに共感したりして、自由に発言できる時間を多く取り入れてきた。ペア学習、グループ学習も意図的に組み込み、話しやすい、聞きやすい環境づくりに努めている。道徳の時間が板書を写す時間のみにならないように中心発問と終末のみノートを出させる等の指導もしている。

また、本時であれば中心発問である「なぜ正直に言ったのか」という行為を支える動機を意識する発問は必ず入れ、児童の考えに教師が切り返しの発問をすることで道徳的価値を深める授業実践を大切にしている。

(2) 昨年度ご指導いただいたこと

1月31日の研究授業において指導者の先生からは①一つの発問から児童のつぶやきを聞き逃さずに拾いそれを全体にも広めていくこと、言霊を大切にしてほしいということ②ゴールをもって授業に臨むことで方向を見失うことはない、というご指導をいただいた。

今年度もその2点は常に意識しながら授業に臨んでいる。やはり児童からの言葉が出なければ道徳科の授業は成り立たない。いかに葛藤場面での主人公に自分の思いを重ね合わせ心を熱くした児童の言葉を引き出すことができるかが明確なゴールへとつながっていく。

本時であれば葛藤場面での主人公の苦しみ心情を十分に考えさせ、児童自ら挙手して発言してくる言葉やつぶやきを拾いながら、教師が集約することで「正直であることのよさ」に気付き明るいい心で接することの気持ちよさを感じさせることをゴールにする。

5 学習指導過程

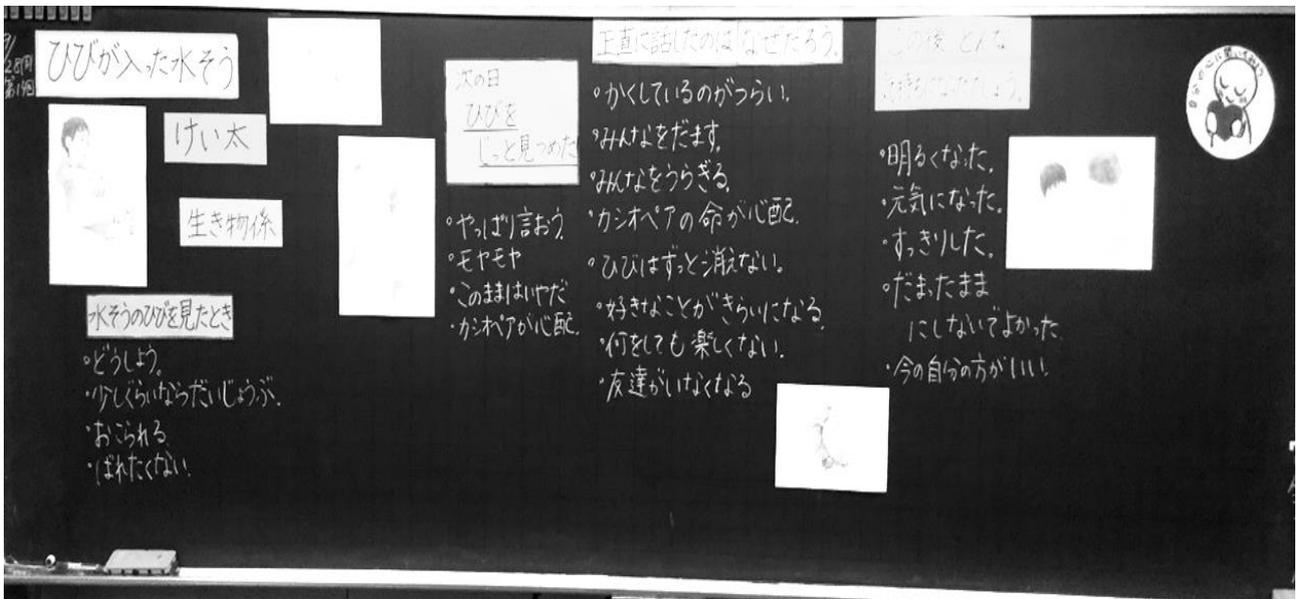
段階	学習活動と主な発問	予想される児童の心の動き	・指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	<p>1 教材への関心を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな場面だと思いますか。 <p>・みんなも同じような経験をしたことがありますか。思い出してみましよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教室で何か憂鬱そうな感じで座っている。 ・悲しそう。 ・何かびくびくしている。 ・何かを壊してしまったのかな。 ・自分も同じような経験をしたことがあるな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主人公けい太が水そうにひびを入れてしまった後の憂鬱な表情の場面絵を見せ、どんな心情かを考え、自分にも同じような経験があったかどうかを振り返らせる。 ・お互いを中傷し合うことがないように深入りしすぎず、ねらいとする道徳的価値への方向づけをする。
展開	<p>2 教材を読み、話し合う。 主人公のけい太になってお話を聞きましょう。</p> <p>(1)水そうのひびを見たとき、けい太はどんなことを思ったでしょう。</p> <p>(2)次の日、ひびをじっと見つめたけい太、どんなことを考えていたかな。</p> <p>(3)けい太はなぜ正直に先生に言いに行ったのだろう。</p> <p>(4)ぼくの心はこの後どうなったでしょう。</p> <p>3 自己を見つめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の心に聞いてみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どうしよう。 ・少しのひびならだいじょうぶかな。 ・怒られる。 ・このままにしようか。 ・でも・・・。 ・怒られたくない。 ・バレたくない。 ・カシオペアだいじょうぶかな。 ・このままはいやだ。 ・やっぱり勇気を出して正直に言おう。 ・カシオペアが心配だ。 ・このモヤモヤを早くスッキリさせたい。 ・かくしているのがつらい。 ・みんなをだます。 ・みんなをうらぎる。 ・めいわくがかかる。 ・カシオペアの命が心配。 ・ひびはずっと消えない。 ・好きなことが嫌いになる。 ・何をしても楽しくない。 ・友達がいなくなるかも・・・。 ・名前を呼ばただけなのに、ひびのことを言われるのではとびくびくしてしまう。 ・明るくなった。 ・元気になった。 ・すっきりした。 ・笑顔になった。 ・気持ちがずっと良くなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「Listen&Talk」の授業を意識し、主人公けい太の心の動揺や葛藤場面での苦しみについての言葉がでるような発問をし、それを学級全体でよく聞き合い、友達の考えに対する自分の考えをもち議論できるような雰囲気づくりをする。 ・ノートを書くことに集中しないようにノートは中心発問の場面と終末のみ出させるようにする。 ・人間の弱さと良心を出させ、自分ごととしてとらえさせるようにする。 ・家の水そうだったらどうかなど場所の軸を変えて発問をし、状況をとらえさせる。 ・中心発問(3)を深めるための補助発問とし、この場面での思いも十分に考えさせる。 ・家に帰ってからも暗い気持ちで母親に言えばすっきりしたはずなのになぜ言わなかったのかという心情もおさえる。 ☆正直に行動する理由を考え、友達の考えを聞き、自分の考えと比べながら深め、話し合っている。 ・正直に伝える行為を支える動機について、切り返しの発問を入れながら、たくさんの考えを出させる。 ☆正直に生きるからこそ明るい

	今日の授業を通して今、自分の心が言っていることをノートに書きましょう。		心で元気に生きられることを自分の考えとしようとしている。 ・正直に話す前と後の気持ちを想起させ、心地よさを味わわせる。
終末	4 教師の説話を聞く。		・これからの生活の中で正直に生きていこうとする心の意識を高める。

6 他の教育活動との関連

事前指導	正直にできなかった行動についてのアンケート調査をしておく。
特別の教科 道徳	教材名 「ひびが入った水そう」 過ちを素直に認める行動について話し合うことを通して、正直であるからこそ、明るい心で伸び伸びとした生活が実現できることを理解し、元気に過ごそうとする心情を育てる。
事後指導	道徳コーナーに意見を掲示するとともに、授業で紹介しきれなかった意見を紹介する。
家庭との連携	授業中に出た児童の考えや道徳ノートの記述を「道徳レポート」として教室にある道徳コーナーに掲示し、授業参観の折に見ていただく。

7 板書計画



8 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・正直に行動する理由を考え、友達の考えを聞き、自分の考えと比べながら深め、話し合っている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・正直に生きるからこそ明るい心で元気に生きられることを自分の考えとしようとしている。